

第1回
長瀬町小中一貫教育
検討委員会

開催：令和6年6月27日



本日の 主な内容

- はじめに
- これまでの児童生徒数の推移状況
- これからの児童生徒数の推移予測
- 学校施設の整備状況
- 学校施設の今後の維持・更新コスト(長寿命化型)
- 課題
- 課題解決に向けて
- 今後のスケジュール

はじめに

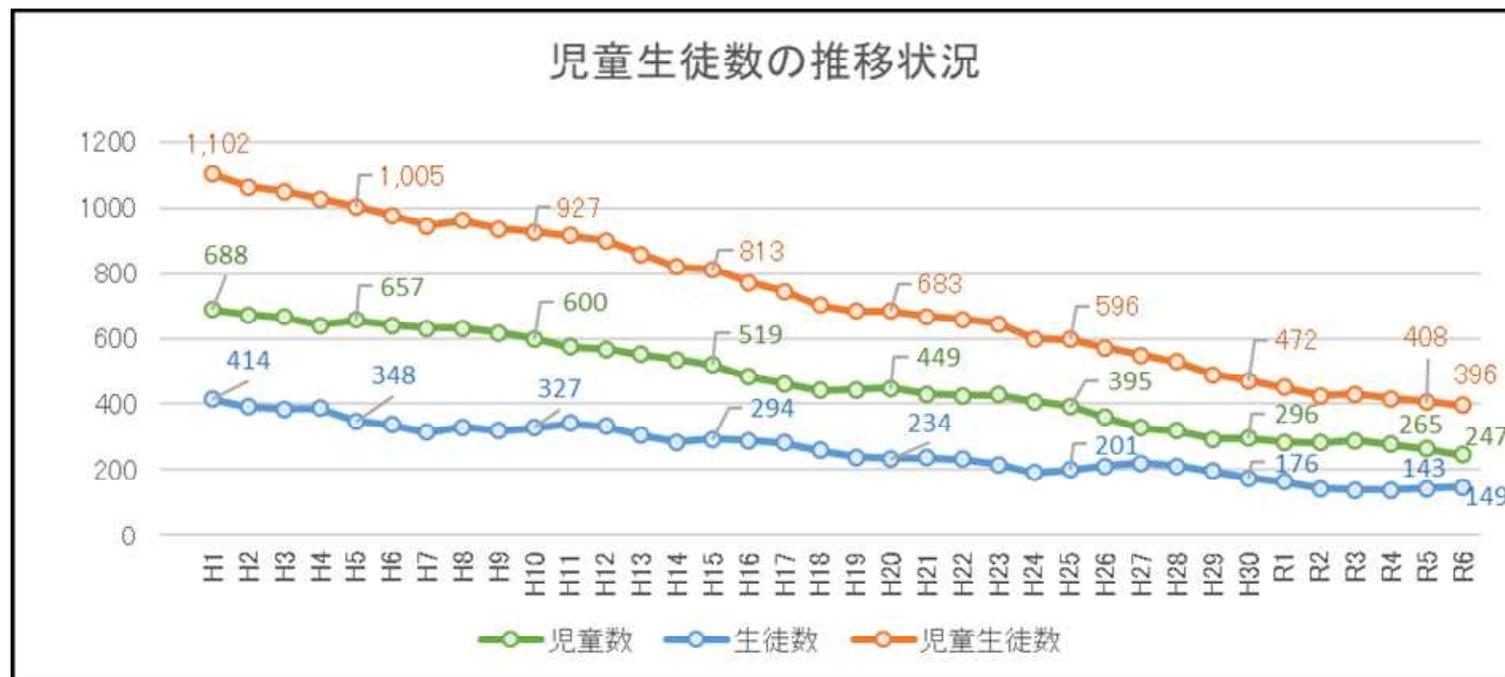
長瀬町の児童生徒数は年々減少しており、このままのペースで減少を続けると令和9年には小学校が、令和12年には中学校を含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されています。

長瀬町教育委員会では、将来の児童生徒の減少に対応しながら、より良い教育環境の整備を図るため「小中一貫教育」に向けた検討を行っています。

これまでの取り組み

年月	内容
R2年3月	長瀬町公共施設長寿命化計画(総合管理計画)策定 ・学校施設の劣化状況評価を実施 ・学校施設の長寿命化に向けたロードマップを作成
R2年7月	長瀬町学校のあり方検討委員会設置
R3年2～6月	学校教育についてアンケートを実施 ・保護者(子どもが町内の小中学校、保育園、認定こども園に通う)及び町民を対象
R4年6月	長瀬町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画策定 ・長瀬第一小学校と長瀬第二小学校の統合 ・小中一貫教育に向けた施設の検討
R6年4月	長瀬町公共施設劣化状況調査・耐力度調査を実施
R6年4月	長瀬第一小学校に長瀬第二小学校を統合
R6年6月	長瀬町小中一貫教育検討委員会設置

これまでの 児童生徒数の 推移状況



項目	児童生徒数	H1年と比較	5年前と比較
H1年	1,102	-	-
H5年	1,005	-8.8%	-8.8%
H10年	927	-15.9%	-7.8%
H15年	813	-26.2%	-12.3%
H20年	683	-38.0%	-16.0%
H25年	596	-45.9%	-12.7%
H30年	472	-57.2%	-20.8%
R5年	408	-63.0%	-13.6%

これからの 児童生徒数の 推移予測



R2年3月の住民基本台帳を基にコーホート要因法による推計

2050年(R32年)の児童生徒数は、2020年(R2年)と比べて約6割(279人)まで減少する見通しです。

学校施設の整備状況

学校施設の整備場状況

※基準年:2024年

施設名	建物名	構造	建築年度	経過年数	目標使用年数	残り使用年数
長瀬第一小学校	校舎	RC造	1977	47	85	38
	体育館	RC造	1978	46	85	39
長瀬第二小学校	校舎	RC造	1976	48	85	37
	体育館	RC造	1977	47	85	38
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52	85	33
	特別教室棟	RC造	1979	45	85	40
	体育館	RC造	1970	54	85	31
	剣道場	SRC造	1984	40	85	45
	柔道場	木造	1995	29	50	21

SRC造:鉄骨鉄筋コンクリート造、RC造:鉄筋コンクリート造、S造:鉄骨造
 ※目標使用年数は、大規模改造工事を実施した場合の使用年数となります。

目標使用年数は、「長瀬町公共施設長寿命化計画」のなかで、建物の構造ごとに設定しています。

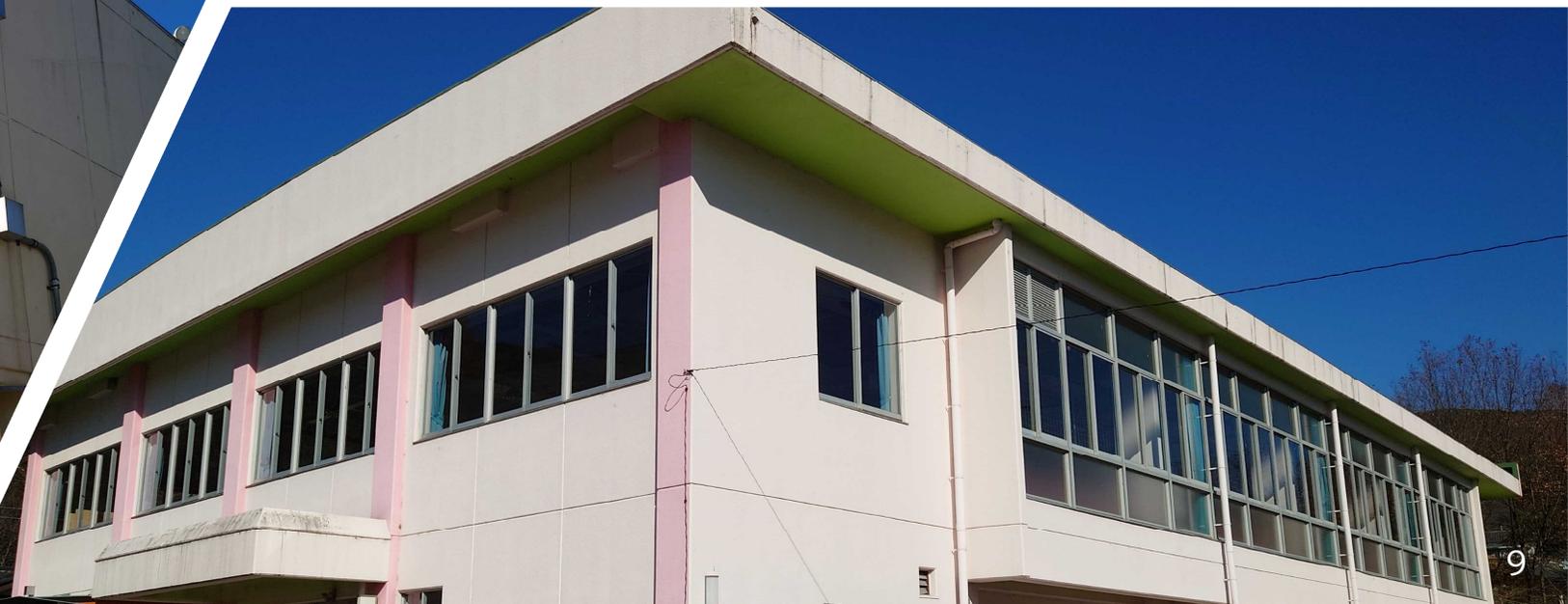
構造	SRC、RC造	S造	木造
目標使用年数	85年	65年	50年

長瀬第一小学校

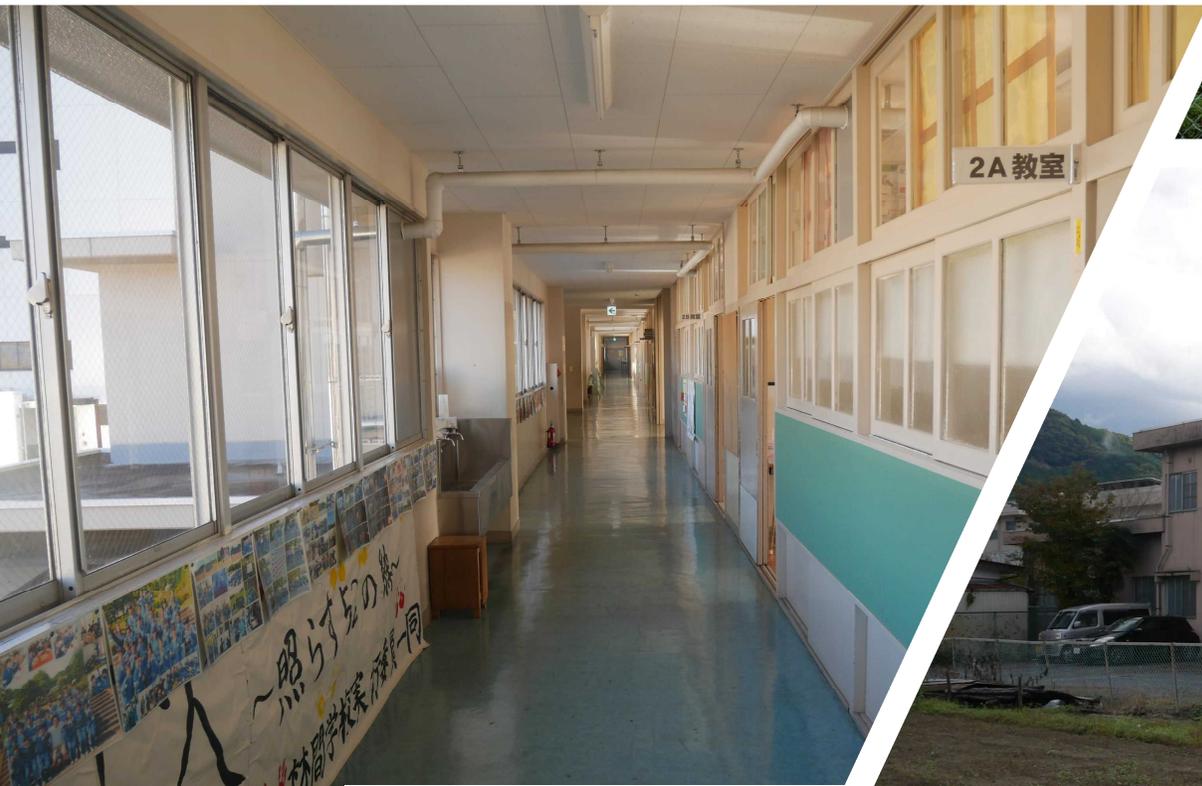




長瀬第二小学校



長瀬中学校



学校施設の劣化状況評価

※基準年:2020年

施設名	建物名	構造	建築年数	経過年数	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点)
長瀬第一小学校	校舎	RC造	1977	43	B	B	C	B	C	58
	体育館	RC造	1978	42	B	B	C	-	-	57
長瀬第二小学校	校舎	RC造	1976	44	B	B	C	B	B	62
	体育館	RC造	1977	43	B	B	C	-	-	57
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	48	B	B	C	B	B	62
	特別教室棟	RC造	1979	41	B	D	C	-	-	32
	体育館	RC造	1970	50	B	B	C	-	-	57
学校給食センター	剣道場	SRC造	1984	36	B	B	B	-	-	75
	柔道場	木造	1995	25	B	B	B	-	-	75
学校給食センター	共同作業所	RC造	1980	40	B	C	C	B	B	52

出典:長瀬町公共施設長寿命化計画(R2年3月)より抜粋

- A:概ね良好
- B:部分的に劣化
- C:広範囲に劣化
- D:早急に対応する必要がある

耐力度調査結果

施設名	建物名	構造耐力①	健全度②	立地条件③	耐力度 (①×②×③)	判定
長瀬 第一小学校	西校舎	97点	66点	0.94	6,018点	○
	東校舎	97点	66点	0.94	6,018点	○
長瀬中学校	校舎	90点	66点	0.94	5,584点	○

出典：長瀬町公共施設劣化状況調査・耐力度調査(R6年4月)より抜粋

※調査は、「既存鉄筋コンクリート造学校建物の耐力度測定方法(平成30年改訂版)を適用。

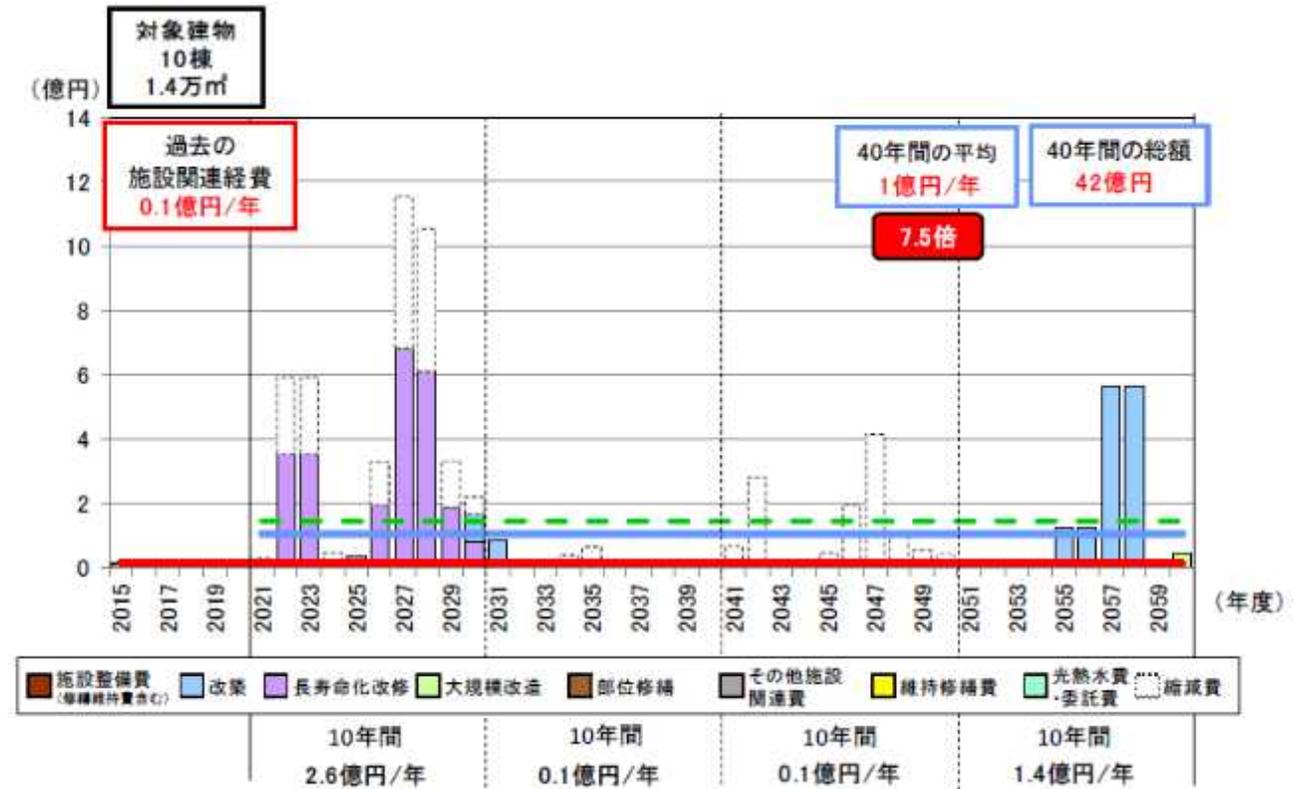
※構造耐力①、健全度②は、100点満点における評価点数。

※立地条件③は、指数評価(1.00)。

※耐力度は、10,000点満点における評価点数で、4,500点以上が耐力度基準をクリア。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

学校施設の 今後の維持・ 更新コスト (長寿命化型)



出典:長瀬町公共施設長寿命化計画(R2年3月)より抜粋

分類	周期
部位修繕(D評価)	5年
部位修繕(C評価)	10年
大規模改造	30年
長寿命化改修	50年
改築(建替え)	85年

現在の学校施設をそのまま維持・更新すると、今後40年間で42億円、年平均約1億円必要と試算されました。

今後10年間のロードマップ

施設名	建物名	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
長瀬第一小学校	校舎					修繕	修繕		基設計	実設計	長寿化
	体育館				修繕	修繕等	修繕			修繕	修繕
長瀬第二小学校	校舎		修繕					修繕等			
	体育館			修繕		修繕	修繕		修繕	修繕	修繕
長瀬中学校	校舎			基設計	実設計	長寿化					修繕
	特別教室棟	修繕				基設計	実設計	長寿化			
	体育館	修繕				基設計	実設計	長寿化			
	剣道場					修繕等	更新				修繕
学校給食センター	共同作業所	修繕	修繕	修繕	修繕		修繕	修繕	基設計	実設計	長寿化

長寿化:長寿命化改修工事
 長瀬中学校剣道場の更新:屋根・外部
 基設計:基本設計
 実設計:実施設計

出典:長瀬町公共施設長寿命化計画(R2年3月)より作成

**2020年(R2年)からの10年間における
 学校施設の修繕・改修工事費に約19億円かかる見通しです。**

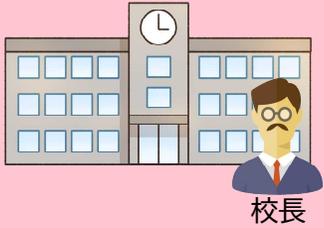
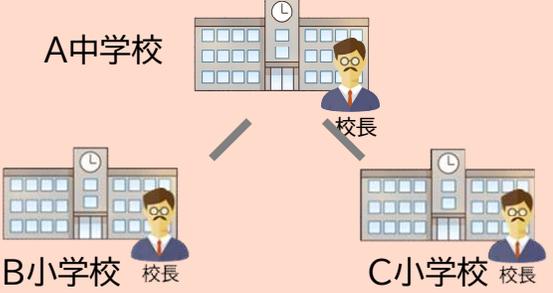
課題

- 四半世紀後、長瀬町の児童生徒数は現在の6割程度まで減少する見通しです。このままのペースで減少し続けると令和9年には小学校が、令和12年には中学校も含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されます。
- 児童生徒数の減少に対応しながら、より良い教育環境の整備が必要となっています。
- 学校施設の老朽化が進行しており、これからも建物を長く活用していくためには、長寿命化改修工事が必要な時期を迎えています。
- 現在の学校施設を維持・更新していくと40年間で、42億円の費用が必要と試算されました。

課題解決に向けて

- 長瀬町教育委員会では、将来の児童生徒の減少に対応しながら、より良い教育環境の整備を図るため、「小中一貫教育に向けた検討」を行っています。

小中連携、小中一貫教育制度の関係

<p>小中連携教育</p>	<p>小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育。</p>		
<p>小中一貫教育</p>	<p>小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育。 いずれの学校も施設の形態(一体型、隣接型、分離型)は問わない。</p>		
<p>①義務教育学校 新たな学校種(1つの学校) ⇒1人の校長、1つの教職員組織</p>	<p>小中一貫型小学校・中学校 組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態 ⇒それぞれの学校に校長、教職員組織</p>		
<p>修業年限:9年 (前期課程6年+後期課程3年)</p> 	<p>②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)</p>	<p>③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)</p>	
	 <p>一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合調整を担う校長を定める ・学校運営協議会の合同設置 ・校長等の併任 	 <p>併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備</p>	

出典:小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き/文部科学省より作成

今後の スケジュール

時期	開催項目	主な内容
8月下旬	第2回 検討委員会	・施設調査報告 ・アンケート結果報告 ・ワークショップ開催に向けて
9月下旬	第1回 ワークショップ	・現地視察:長瀬中学校 ・(仮)校舎のゾーニングプラン検討
11月下旬	第2回 ワークショップ	・ゾーニングプラン(案)に対する 意見交換
1月中旬	第3回 検討委員会	・基本構想報告書(素案)報告
2月下旬	第4回 検討委員会	・基本構想報告書(案)報告